

オーディオ実験室収載

My Sonic Signature Gold の活用(1) —アナログと他メディアの比較試聴(1) —

1. はじめに

My Sonic Signature Gold の導入については、経過を [My Sonic Signature Gold の導入\(1\)](#) で報告し、[My Sonic Signature Gold の導入\(2\)](#) から [My Sonic Signature Gold の導入\(19\)](#) までは、「バッハを聴く」と題したシリーズで、長年聴いてきた、あるいは近年あまり聴いていない盤を、同じ曲のデジタル音源と比較しつつ聴いてきました。今回シリーズを改めて My Sonic Signature Gold での再生で聴いていくことにします。

2. My Sonic Signature Gold の試聴方法

今回は、「アナログと他メディアの比較試聴」ですが、すでに [My Sonic Stage 1030 の導入\(8\)](#) から [My Sonic Stage 1030 の導入\(17\)](#) までのシリーズで、カートリッジは ZYX R100-EX を使用して実施しています。今回のシリーズでは、同様のことをカートリッジを My Sonic Signature Gold に替えてこれまであまり聴いていなかった音源で実施していくことにします。

試聴方法は My Sonic Signature Gold の導入(2)と同様です。

今回の曲はモーツアルトの交響曲 40 番と 41 番を選び、2 回に分けて報告します。

【アナログ】

CBS SONY 32AC 1310 交響曲 40 番 41 番 クーベリック指揮バイエルン Rundfunks



【MQA-CD】

Universal Music UCCG-40005 交響曲 40 番 41 番 ベーム指揮ベルリンフィル



【BPODCH】

2013年8月収録 交響曲40番41番 ラトル指揮ベルリンフィル

【BS録画】

2018年6月収録 交響曲40番 ネルソンス指揮ゲヴァントハウス

3. My Sonic Signature Gold の試聴結果

アナログ盤はMQA-CDとともに[Brooklyn DAC+の試聴\(8\)](#)で聴いています。このとき、アナログのフォノイコとMQA-CDのデコードは、Brooklyn DAC+を使用していますが、今回はフォノイコにiPhonoを使用し、MQA-CDは通常CDとしてPhilips LHH1001とDAC-1の組み合わせで再生しています。

クーベリック指揮バイエルンRundfunksのアナログ盤は、なんと言ってもMy Sonic Signature Goldのウォームで押し出しの良い躍動感のある音が魅力ですし、クーベリックの指揮もオーソドックスでゆったりとした佇まいが魅力です。

ベーム指揮ベルリンフィルのMQA-CDは、今回はMQAのデコードはされていませんが、アナログマスターらしい艶のある音で、ベームの端正で構成のしっかりしたモーツアルトです。

ラトル指揮ベルリンフィルのBPODCHは、ややアップテンポで華やいだモーツアルトです。同じベルリンフィルでもベームの指揮の演奏とは随分違います。

ネルソンス指揮ゲヴァントハウスのBS録画は、2018年3月のゲヴァントハウスでの演奏で、ネルソンスの軽やかな指揮とゲヴァントハウスのじっくりと音楽を描き出すところが魅力です。

4. まとめ

残すCDは、まだ聴いていませんが、これまでの演奏はすべて水準以上で、モーツアルトの音楽を堪能できます。クーベリックのアナログ盤の音が少し飛びぬけていますが、ベームのMQA-CDが音としても演奏も魅力的です。

以上